

2014年7月9日

## フィリピン・メロセブ水道区(MCWD)との提携に関するお知らせ

水処理メーカーの日本原料株式会社(本社:川崎市川崎区 代表取締役社長:齋藤安弘、以下「日本原料」)は、フィリピン・メロセブ水道区(以下「MCWD」)と、フィリピン国における更生工事業のフランチャイズ提携に関する合意を取り交わしたことをお知らせいたします。

### 1. 提携の目的と概要

日本原料は、同社が開発した更生工事を施工する権利と技術を付与し、MCWD による第三者への更生工事の委託、および技術を販売するための合意を2014年5月30日付で MCWD と取り交わしました。このたびの合意は、双方の長期にわたる良好な関係の構築と継続、およびフィリピン国水道事業者様の施設運用管理上の課題に対応し上下水道施設のろ過池改善と水道の発展に貢献することで、事業を拡大することを目的としております。

このたびのフランチャイズ提携により、さらなる相互の連携強化と、フィリピン国内での更生工事業の普及、またフィリピン国近隣諸国を含めた日本国外での更生工事業の拡大が期待されます。また、本提携をモデルとした更生工事業の海外フランチャイズ事業の拡大も期待されます。

### 2. フィリピン・メロセブ水道区の概要

フィリピン第二の都市であるメロセブは、急速な人口増加や都市化の一方で、水道普及率は約 56%と不十分であること、水源の約 95%を地下水に頼るなど、水道を含む脆弱なインフラが経済発展を阻害する要因となっています。メロセブの水道事業者であるメロセブ水道区の浄水場では、原水の汚れを除去するために砂を主とした粒状のろ過材(フィルター)を利用していますが、ろ過を続けることでろ過材の表面に汚泥が付着してろ過機能が損なわれ、給水量も低下しています。

日本原料は、横浜ウォーター株式会社(本社:横浜市中区相生町6-113 代表取締役社長:五十川健郎)と共同で、フィリピン・メロセブ水道区で「移動式砂ろ過浄水装置及びろ過池更生工事システムの普及・実証事業」(独立行政法人国際協力機構(JICA)事業)を2013年11月から2016年1月にかけて実施しています。昨年11月に同国を襲った台風30号「ヨランダ」の被災地には、緊急給水支援チームを派遣し移動式砂ろ過水処理装置「モバイルシフォンタンク」を設置しました。今後は、更生工事に係る機材もメロセブ水道区の浄水場内に設置し、更生工事に係る技術移転も実施する予定です。

3. 提携対象となる事項

- (1) 日本原料が開発した更生工事ノウハウ、機械および装置を使用して更生工事を施工する権利
- (2) 更生工事を施工するための技術の付与と支援
- (3) MCWD による第三者への更生工事施工委託、および技術の販売
- (4) 更生工事事業の普及を目的とした相互の情報共有と支援

4. 更生工事の概要

更生工事は、浄水場で使用され経年劣化したろ過材を再生させるリサイクル工事で、日本原料が昭和30年代から提唱し、日本国内で実績を積み重ねてきたメンテナンス方法です。ろ過池の中のろ過材を「ろ過池更生システム(高速度篩分け洗浄機)」を使用して洗浄し、再びろ過池に戻すことで、ろ過池の処理能力を回復させます。



ろ過池更生システム

日本原料は昭和14年の創業以来たゆまぬ努力を続け、ろ過材トップメーカーとして日本の浄水場の8割以上でご利用いただいております。また、ろ過材を破碎することなく揉み洗いする特許技術「シフォン洗浄技術」を用いたシリーズ製品の開発にも注力しており、近年では国内外の緊急災害時に活用できる移動式「モバイルシフォンタンク」、電気のない国や地域に活用できる「シフォン無電源ろ過装置」を発表しました。今後も安心・安全な「水」を世界中に届け、国や地域による水の格差をなくすために尽力いたします。「ろ過」「ろ過材」「水処理」の知見をもとに、日本原料ができること、日本原料だからできることに一層努めてまいります。

**日本原料株式会社**

本社:川崎市川崎区東田町1-2 NKF川崎ビル

TEL 044-222-5555

FAX 044-222-5556

<http://www.genryo.co.jp>

[info@genryo.co.jp](mailto:info@genryo.co.jp)

担当者:企画開発推進本部 田中